



【余土小学校】

<第3学年：見たい知りたい わたしたちの町 松山>

余土小学校には、余土地域の歴史を学ぶための副読本「わたしたちの余土」や教材玩具、かるた「余土めぐり」がある。1学期は、これらの教材を使って、地域の歴史や先人の業績を調べ、ふるさと余土に対する理解を深めた。2学期には、余土地域から松山全体へと視点を広げ、松山市の歴史や文化財に触れる松山探検を行った。松山城や子規堂を見学する中で、実際に足を運び、その様子や特色について、五感を通じた課題解決学習を進めることができた。調べたことは、ロイロノートやワークシート等を活用して発表資料にまとめ、その成果を伝え合った。



また、3学期には、余土や松山の歴史に対する自分の思いや考えをかるたに表し、自分たちの余土かるたを作って発表した。これらの活動を通して、地域への愛着を深めるとともに、郷土を誇りに思い、ふるさとを大切にしていきたいという態度を育むことができた。



<第4学年：共に生きる>

子どもに障がいとは何かを考えさせ、特別なことではなく、自分たちにも関係があるということに気付かせた。ゲストティーチャーの話聞き、実際にガイドヘルプや手話、車椅子や高齢者サポートなどの福祉体験をする活動は、学びを深める機会となった。ゲストティーチャーの方の生活を楽しむ工夫や前向きな生き方を知り、相手の立場や思いを考えて関わることの大切さについて考えることで、自分にできることを実践していこうとする気持ちも高まった。福祉体験の後、さらに知りたいことを調べたり、バリアフリーの観点から、地域に出かけ、よりよい町づくりについて取材したりした。さらに、地域の先人の業績を福祉との関連という視点から捉えて学びを広げた。また、タブレットを活用して、まとめたことを発表し合い、多様な考えに触れることで、思いやりの心や、違いを認め合ってともに生きようとする力、自分の生活につなげて生かす力などが育った。





【余土小学校】

＜第5学年：バケツ稲を育てよう＞

地域の先人である森盲天外である「一粒米」の話から米づくりへの思いが芽生え、土づくり、苗植え、中ぼしへと活動を進めていった。子どもたちは、種もみから少しずつ生長し稲ができる様子を観察し、米が育つ喜びを感じていた。日照りの続く日には、水が干上がらないように気を付け、収穫を迎えた際には、わくわくしながら刈り取りをし、一粒も無駄にしたいと大事に脱穀を行っていた。苗を育てる体験や友達との探求・表現活動を通して子どもたちは、試行錯誤しながら稲を育てた。

また2学期には、収穫した米を使って調理実習を行った。米の粒を数え一粒も無駄にしないように調理を行い、自然の恵みに感謝しながらいただいた。

3学期には、米づくりのまとめを行い、「稲を育ててみて農家の方の大変さを感じた」「地球温暖化対策をしなければ稲が育たないかもしれない」「調理実習で自分たちが育てた米はこんなにもおいしいんだと感じた」「これからは残さず食べようと思う」などという感想をもった。個人だけではなく、グループでも米について調べたことをまとめた。歴史や米の種類、最新技術、ブランド米について、お米に合う環境、お米を使った料理など、本やタブレットを活用しまとめた。多様な考えに触れることで、米づくりに携わる人々の思いを知ることにつながった。さらに、米づくりに携わる人々への感謝の気持ちから食生活を見直し、日常生活に生かしていこうとする姿が見られた。

